

# 流域委員会資料の訂正及び追加について

## 【訂正資料】

・第67回淀川水系流域委員会(平成19年11月26日) 審議資料1-3-6  
補足資料 3. 淀川本川において計画高水位を超える区間、水位、時間について

訂正箇所：・昭和34年台風15号型の1.45倍について、計画高水位超過時間を  
2時間から3時間に訂正  
・縦断図の凡例 722×1.53を5915×1.45に訂正

## 【追加資料】

・第67回淀川水系流域委員会(平成19年11月26日) 審議資料1-3-6  
補足資料 3. 淀川本川において計画高水位を超える区間、水位、時間について

追加内容：・昭和47年台風20号×1.53倍(追加資料 )  
・昭和34年台風15号×1.45倍(追加資料 )において、  
計算条件に川上ダム整備を追加

# 【訂正資料】

## 3. 淀川本川において計画高水位を超える区間、水位、時間について

大戸川ダムの効果として示している、天ヶ瀬再開発有り、川上ダム無し、大戸川ダム無しの場合の昭和34年台風15号型の1.45倍について、計画降水位を越える区間、越える水位、及び越える時間はどうか。(図6-#66委資料 2-3 P3 上表)

### 流域委員会資料の訂正について

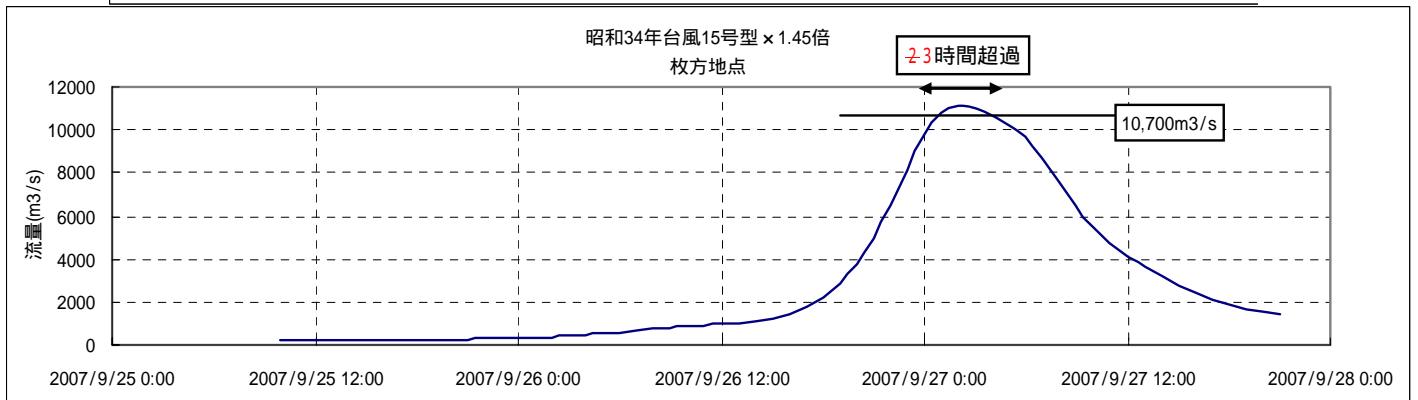
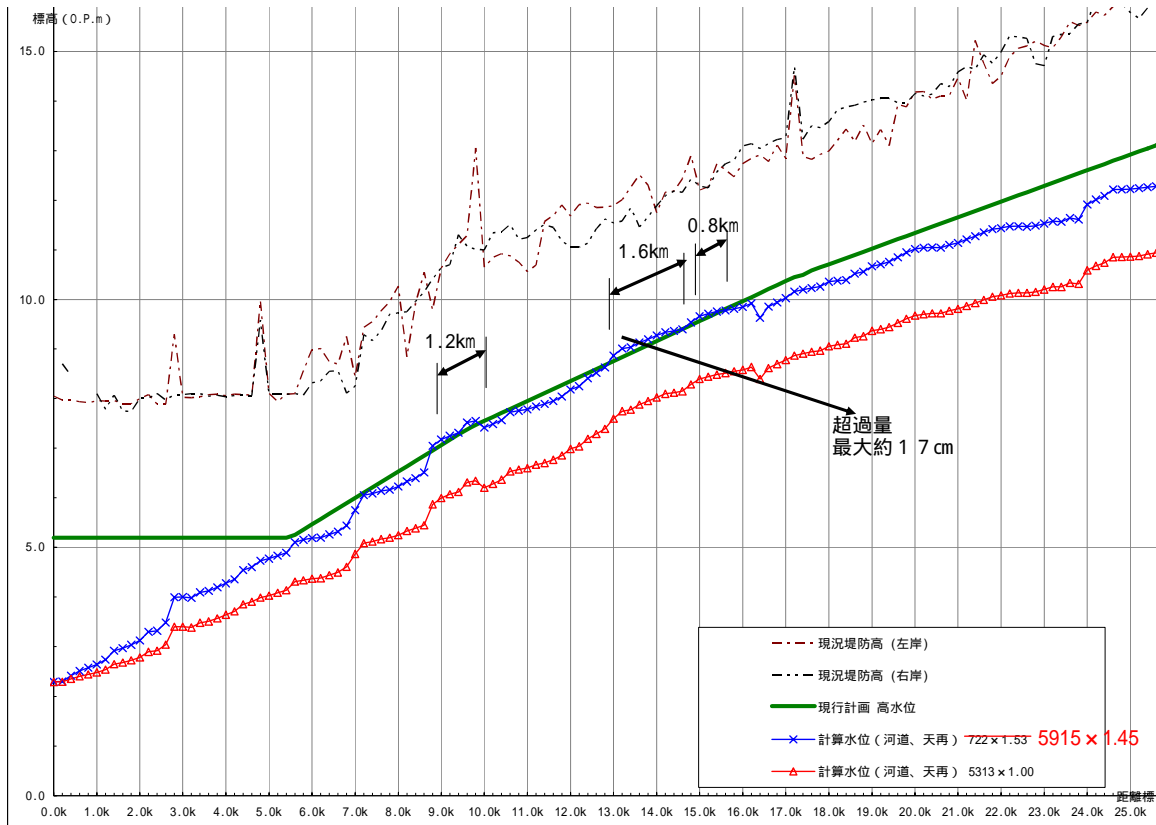
・計画規模洪水昭和34年台風15号×1.45倍における計画高水位を超える区間は8.8k~9.8k、13.0k~14.4k、14.8k~15.4kの3区間あり、計画高水位を超える水位と計画高水位の差は最大で約17cmとなる。なお、今回の検討ではピーク時の流量から不等流計算により水位を求めたものであり、計画高水位を超えている時間の算定はできないが、参考として、最小流下能力地点での流下能力相当の流量を枚方地点で超過している時間を計上すると3時間となる。

計画規模 昭和34年台風15号洪水×1.45倍(羽束師1/200)

計画高水位	超過区間	超過水位	最大値	最大値の地点
	8.8k ~ 9.8k	1,200m	13.4cm	9.6k
	13.0k ~ 14.4k	1,600m	17.2cm	13.2k
	14.8k ~ 15.4k	800m	9.8cm	15.0k

超過時間(参考): 23時間(最小流下能力地点(9.6k)での流下能力相当の流量(10700m<sup>3</sup>/s)を枚方地点で超過している時間)

天ヶ瀬ダムは1140m<sup>3</sup>/s一定放流を実施



# 【追加資料】

## 3. 淀川本川において計画高水位を超える区間、水位、時間について

問

大戸川ダムの効果として示している、天ヶ瀬再開発有り、川上ダム有り、大戸川ダム無しの場合の昭和47年台風20号型の1.53倍について、計画降水位を越える区間、越える水位、及び越える時間はどうか。

・計画規模洪水昭和47年台風20号×1.53倍における計画高水位を超える区間は8.8～9.8k、13.0～14.0k、14.8～15.4kの3区間あり、計画高水位を超える水位と計画高水位の差は最大で約17cmとなる。なお、今回の検討ではピーク時の流量から不等流計算により水位を求めたものであり、計画高水位を超えている時間の算定はできないが、参考として、最小流下能力地点での流下能力相当の流量を枚方地点で超過している時間を計上すると3時間となる。

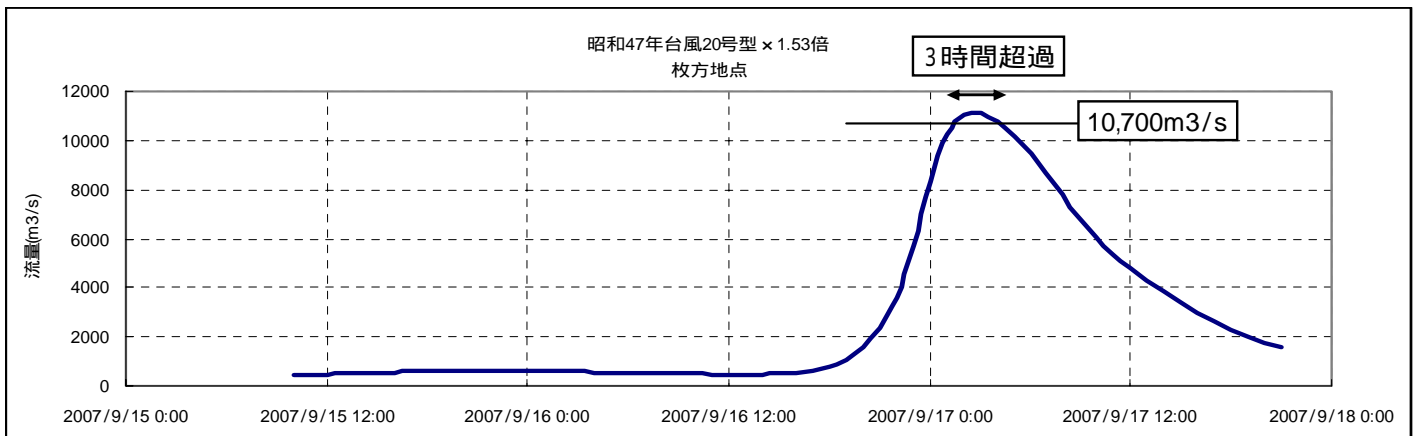
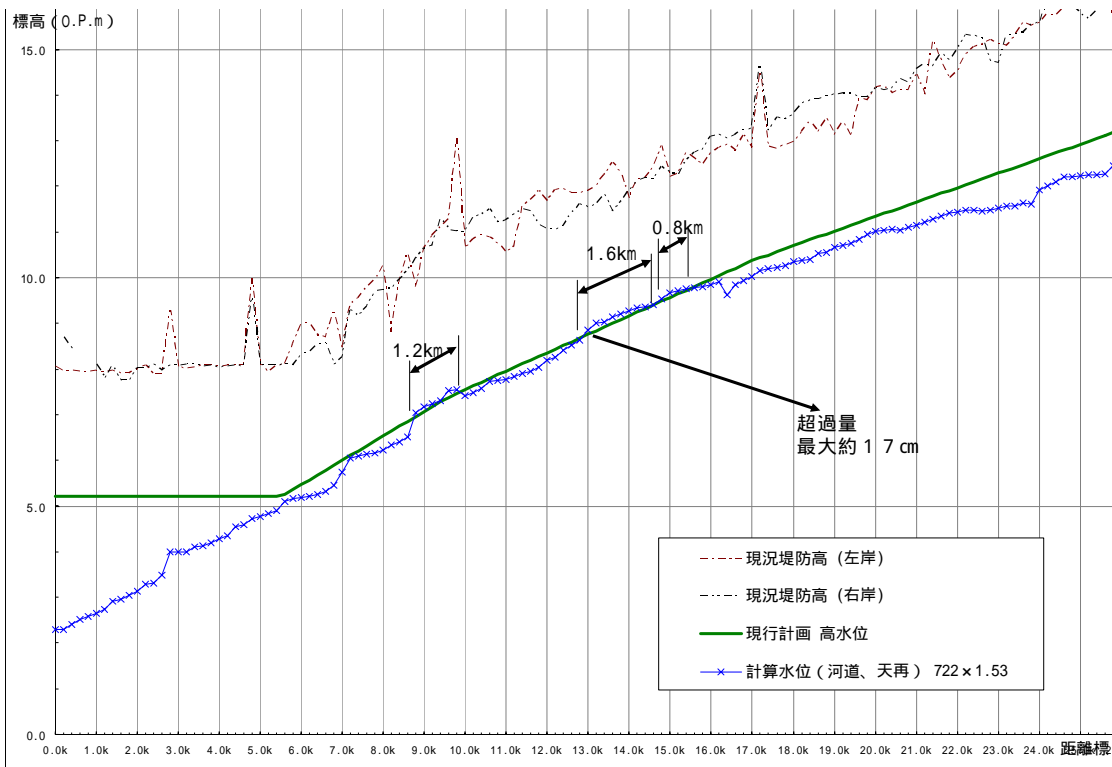
計画規模 昭和47年台風20号洪水×1.53倍

計画高水位	超過区間	1,200m 1,600m 800m	超過水位	最大値 最大値の地点	
				13.4cm 17.2cm 9.8cm	9.6k 13.2k 15.0k
	8.8～9.8k		8.8～9.8k	13.4cm	9.6k
	13.0k～14.4k		13.0k～14.4k	17.2cm	13.2k
	14.8k～15.4k		14.8k～15.4k	9.8cm	15.0k

超過時間(参考): 3時間(最小流下能力地点(9.6k)での流下能力相当の流量(10,700m<sup>3</sup>/s)を枚方地点で超過している時間)

天ヶ瀬ダムは1140m<sup>3</sup>/s一定放流を実施

川上ダム(70m<sup>3</sup>/sカット)有り



## 【追加資料②】

### 3. 淀川本川において計画高水位を超える区間、水位、時間について

問

大戸川ダムの効果として示している、天ヶ瀬再開発有り、川上ダム有り、大戸川ダム無しの場合の昭和34年台風15号型の1.45倍について、計画降水位を越える区間、越える水位、及び越える時間はどうか。

・計画規模洪水昭和34年台風15号×1.45倍における計画高水位を超える区間は8.8k~9.2k、9.6k~9.8k、13.0k~14.4k、14.8k~15.2kの4区間あり、計画高水位を超える水位と計画高水位の差は最大で約13cmとなる。なお、今回の検討ではピーク時の流量から不等流計算により水位を求めたものであり、計画高水位を超えている時間の算定はできないが、参考として、最小流下能力地点での流下能力相当の流量(10,700m<sup>3</sup>/s)を枚方地点で超過している時間を計上すると2時間となる。

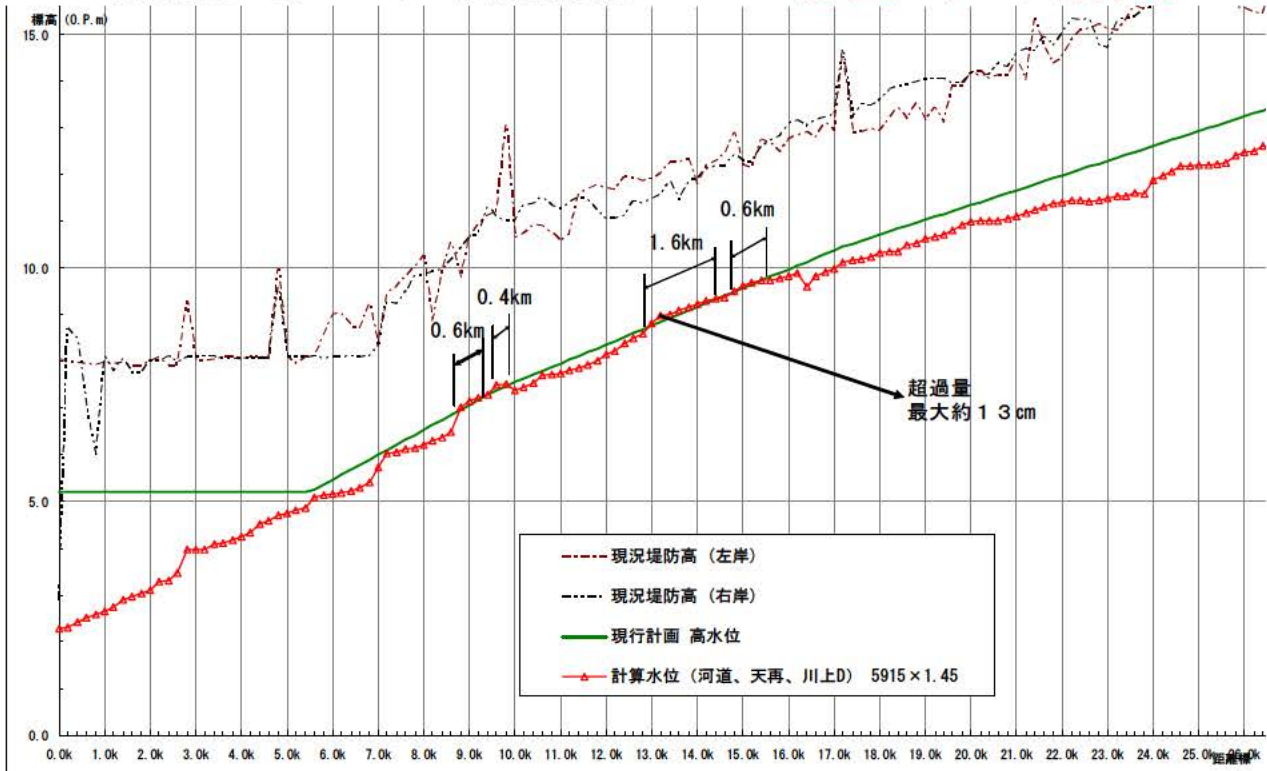
計画規模 昭和34年台風15号洪水×1.45倍

計画高水位	超過区間	600m	400m	1,600m	600m	超過水位	8.8k~9.2k	9.6k~9.8k	13.0k~14.4k	14.8k~15.2k	最大値	最大値の地点
	8.8k~9.2k	600m				8.8k~9.2k	7.7cm	9.0k				
	9.6k~9.8k		400m			9.6k~9.8k	9.7cm	9.6k				
	13.0k~14.4k			1,600m		13.0k~14.4k	13.3cm	13.2k				
	14.8k~15.2k				600m	14.8k~15.2k	5.9cm	15.0k				

超過時間(参考): 2時間(最小流下能力地点(9.6k)での流下能力相当の流量(10,700m<sup>3</sup>/s)を枚方地点で超過している時間)

※天ヶ瀬ダムは1140m<sup>3</sup>/s一定放流を実施

※川上ダム(70m<sup>3</sup>/sカット)有り



昭和34年台風15号型×1.45倍  
枚方地点

